

新大工町電停のバリアフリー化

問 新大工町電停のバリアフリー化がいまだ実施されていない中、高齢者が道路を横断している危険な状況が見受けられる。本市としてバリアフリー化をいつ行うのか伺いたい。

答 新大工町電停のバリアフリー化については、平成16年度から関係機関と協議し、昨年度は地域との意見交換会を行い、新大工町電停の馬町交差点側に横断歩道を設置する案に絞り込んだ。今年度は、その整備案について問題を整理しつつ関係機関と課題解決に向けた検討を行ったが、バリアフリー化のためには、馬町交差点の改良も含めた対策が必要であり、その対策の検討に時間を要している。しかしながら、おおむね整備の方針は固まってきており、来年度の事業化に向けて最終的な調整を進めている。本市としても最優先で取り組みむべき施策と認識しているため、早期実現に向け積極的に取り組んでいきたい。



▲新大工町電停

小中貫教育「モデル校」の考え方

問 野母崎地区に開校する小中一貫教育校を本市のモデル校としているが、モデル校をどのような意味で考えているのか。また、本市の教育方針の中でどのような位置づけとするのか。さらに、同校を、独自の教育課程を実践できる教育課程特例校に申請する考えはないか伺いたい。

答 本市では初の小中一貫教育校を平成26年度に開校する。小中連携の現在の取り組みを一步進んだ形にし、小中9年間を4年、3年、2年と区分けすることなどで、施設一体型ならではの一貫教育を行っていく。この小中一貫教育で得られたさまざまな教育効果を、本市すべての小中学校に広げるために、モデル校と位置づけたい。教育課程特例校については、国が定めていない教科を新設するなど、特色ある教育活動ができる反面、1校で行っ



▲新校舎の完成イメージ図

たことを他学校に反映しにくいという課題がある。今後、同校で検証して得られた効果を、施設一体型でなくてもできる小中一貫教育の推進につなげていきたい。

公明党

城山小学校被爆校舎の国の文化財に向けた取り組み

問 同校舎は、爆心地から500メートルの位置にあり、被爆の惨状を残す貴重な遺構として、多くの子どもたちの平和学習に活用されている。同校舎を国の文化財として取り扱うための取り組みと、今後の進め方について伺いたい。

答 被爆校舎をはじめ、浦上天主堂鐘楼ドーム、山王神社の二の鳥居なども重要な被爆遺構と考えており、今後所有者や文化庁と協議しながら国の文化財として取り扱われるように進めていきたい。今後の手続きは、文化財の要件を整えるため、遺構の残存状況の確認や、範囲の決定、各遺構の関連性や重要度の検討、所有者の同意などさまざまな観点から整理を行い、文部科学大臣へ意見具申を行いたい。その後、国の文化審議会に文部科学大臣が諮問

をし、審議会での調査・検討を行う流れとなっている。現在は来年春季の審議会への諮問に向けて調整しているところであり、国の文化財となるよう積極的に取り組んでいきたい。

しま共通地域通貨事業への取り組み

問 県は、しま共通地域通貨事業として離島自治体限定の地域通貨を平成25年から発行する予定であるが、離島振興の観点から、高島地区において本事業への参加ができないか伺いたい。

答 本事業は、離島を訪れる観光客を中心とする島外在住者を対象として、離島の中でさまざまな消費を促進することで離島の活性化を図ろうとするものである。具体的には、1枚千円の地域通貨12枚を1セットとして1万円で購入することにより、2千円のプレミアム分も含めて島内で消費するというものであり、来年4月からの実施に向けて県が準備を進めている事業である。本市としては、島の特色を生かした観光、体験事業への参加者の増加なども踏まえ、今後、池島地区を含めて、地元の商店や関係団体との協議を行い、実現性や事業効果を見極めた後に実施主体である県、関係団体との調整に入っていきたい。